

時計塔の

崩れ落ちてゆく静寂

何時の頃からか

巨大な針は

生命のない豫感を刻み

高  
見  
正  
明

灰色に 海が光る日

移民船が出ていつた日々

空一杯の悲愁が

無表情に

暮れおちた。

(また十二時が廻る)

薄明のシルエットに

海風が吹きつけて、

何時の頃からか

時計塔は

昨日を知らない